

特集・学園めぐり □ 愛知学院大学

アジアの仏教

—— 留学僧座談会 ——

平成八年一月三十日、午後二時～四時

出席者プロフィール

◆ 司会者

引田・引田弘道

一九五三年生まれ。現在、愛知学院大学文学部助教授。博士（文学）。

◆ 出席者

鄭・鄭夙雯。法名・釈法性。比丘尼。

台湾高雄市生まれ。高雄女子高校卒業後出家。岐阜県にある正眼短期大学卒業後、愛知学院大学文学部に編入学。現在本学部四年生。台湾での所属する教団・寺院は、臨濟宗、日月山慈徳寺。

朴・朴鍵。法名・釈智観。比丘。

一九六二年韓国ソウル市生まれ。高校卒業検定試験合格後、愛知学院大学文学部に入學。現在本学大学院修士課程二年。韓国での所属する教団・寺院は大韓仏教曹溪宗、華嚴寺。

嘉木揚・嘉木揚凱朝。蒙藏仏学院教師。

一九六三年中国内蒙古生まれ。阜新蒙古自治県佛寺蒙古中学卒業後、一九八一年北京にある擁和宮で出家、一九九〇年中国蔵語高級仏学院を卒業、現在本学大学院修士課程一年。中国での所属する教団・寺院はチベット仏教、擁和宮。(第十回育英生)

ホアン・ホアン・トロン・ソー。法名・釈源心。比丘。

一九六〇年ヴェトナム承天省、化(HUE)市生まれ、越南高級仏学院卒業。現在本学大学院修士課程一年。ヴェトナムでの所属する教団・寺院は、臨済宗、竹林寺。

ギヤナ・ギヤナ・ラトナ・スローモン(Gyana Ratna Sraman)。比丘。

一九六八年バングラデーシュ、チッタゴン市生まれ。チッタゴン大学卒業後、タイのマハーチュラロンコン大学でパリ仏教を学ぶ。現在本学大学院修士課程一年。バングラデーシュでの所属する教団・寺院は、サンガラージャ・ニカーヤ (Sangharaja Nikaya)。(第十二回育英生)

はじめに

引田・今日は皆さん定期試験の最中、この座談会に出席して頂き大変ありがとうございました。御存じとは思いますが、愛知学院大学の教員や学生諸君は、過去何度となく横浜の善光寺海外留学僧育英会のお世話になっています。私も平成元年度、本学の在外研究でイギリス・オックスフォード大学に行きました時、留学僧に加えて頂きましたし、翌年森祖道先生(文学部・国際文化学科教授)と大学院博士課程二年の浅井君、さらには宗教学科の大学院に在籍していたヴィマラ・ワンサ(Vimala wansa)君や、ディリッブ・クマール・バルア(Dilip kumar Barua)君もお世話になり、物価の高い日本、しかも私立大学の大学院で研究が続けることが出来ました。さらには今日ここに出席している嘉木揚凱朝君もそうですし、今年度は新しくギヤナ・ラトナ・

スローモン君が奨学生に選ばれたばかりであります。

今回善光寺さんが出しておられる雑誌『成寿』で愛知学院大学特集を行うことになりました。そこでこの機会に是非とも留学僧の皆さんの背景となっている仏教をお聞かせ願いたいと思います、このような座談会を企画したわけでありませう。まず皆さんのそれぞれのお国の仏教事情について簡単に話しし



て頂きたいと思ひます。

アジアの仏教の現状

朴・韓国の伝統的であり、しかも最大の宗派は大韓仏教曹溪宗です。この派には全国に二五の本山があり、寺院化数一六九四、信者数一五一三万人、僧侶数一万三千人以上と言われております。その他の主な宗派としては、韓国仏教太古宗、大韓仏教天台宗、韓国仏教法華宗等があります。四、五年前に宗教法人法の改正があり、一定の資金があればかなり自由に新宗派を創ることが出来るようになりましたので、現在では四〇以上の宗派や団体を数えるようになりました。これらの宗派をすべて含めて韓国の仏教徒は約人口の半数、二千万以上だろうと考えられます。ただ宗派と言ひしても、日本のようなセクト的なものではなく、学問的な違いを主としたものであり、その意味で私たちの仏教は通

仏教であると言へます。

引田・海印寺に代表されるように、韓国のお寺は山の中にある印象を受けます。いっぽう町には数多くの十字架が認められますね。これはどうしてなのでしょうか。

朴・もともと韓国の寺院は山中にあつたわけではありませんでした。慶州のようになり開けた平な場所に寺院跡が発見されています。これは政治と仏教とが密接な関係にあつたことを示すものです。ところが李氏朝鮮の時代になると仏教は迫害されるようになりました。仏教徒にとっては受難の時代であつたわけです。この時代は仏教に代わつて儒教が治世の精神的支柱となりました。僧侶たちは政治的弾圧を避けて、市中より山中に逃れるようになったのです。

一方、キリスト教はこの李氏朝鮮時代に中国を経由して私たちの国に伝わりましたが、先祖崇拜を無視する教義は先祖を重視する韓国の国

民性と相入れず、その為あまり広まりませんでした。広まったのは、朝鮮動乱以後でしょうね。

この時宣教師たちが多くやって来て、食料の援助の他、学校の建設を始めとする慈善活動を熱



朴鍵師

心に行った結果、自然とキリスト教に改宗するようになったのでしょう。

引田・鄭さんは、正眼短期大学を卒業後、三年間正眼寺の僧堂で修行されてから、愛知学院大学の三年生に編入学されたのですが、ここで台湾の仏教について少しお話しを伺いたいと思います。

鄭・台湾仏教の二大聖地は、北部の獅頭山と南部の仏光山です。特に仏光山は南部の高尾県にあり、国内最大の仏教道場ですね。私の所属する慈徳寺はこの仏光山より少し北の、台南にあります。慈徳寺の私の師匠も正眼寺出身なので、その法系を継いで私も正眼寺で修行したわけです。

ただ台湾の仏教はこの臨濟宗と曹洞宗とがあります。殆ど名前だけで、実際は念仏中心の浄土教だと言っていると思います。坐禅しながら南無阿弥陀仏と唱えていて、日本の臨濟宗の

ように「悟りとは何か」というようなことを考
えることはありません。また台湾では修行より
も学問が主流で、主要な寺院には仏学院が併設
されており、僧侶や在家信者の教育に力を注い



鄭夙雯尼師

でいます。

また台湾の最近の寺院は巨大化する傾向にあ
ります。仏像等も大きなものが多く作られてお
ります。

引田…そうですね。二年程前、私がオーストラ
リアのブリスベン市を訪れた時、クイーンズラ
ンド州のこの市の近くに、市庁の時計台より高
い仏像が台湾の寺院によって建立されたという
どちらかと言えば批判めいた新聞記事を読んだ
ことがあります。ところで、台湾の仏教は道教
と深く結びついていると聞いておりますが。

鄭…そうですね。台湾では仏教と道教とがまっ
たく一つに同化して民間信仰の対象となってい
ます。寺に行き、仏前に額づき、占いのポエを
落として、長寿や金運を願うといった現世利益
を求める多くの人たちが台湾には見受けられま
す。ただ最近では必ずしも仏教を現世利益の宗
教として理解していないようになりました。特

に大学生などは仏教のクラブやサークルをキャンパス内に持ち、ヴォランティア活動等を行って、純粹な仏教精神に興味を抱き、卒業後出家する人たちもいます。さらに多分経済的繁栄の裏返しでしょうか。精神的拠り所を求める人たちが増え、それに応えるように新興宗教も目だつようになりました。

引田…経済的繁栄というのは結果的に個人主義や拝金主義をうみだしてしまうものですから、これは大家族主義に慣れ親しんできた我々アジア人にはかなりしんどいものですね。ヨーロッパ人が長年培ってきた個人主義は自由経済と一緒に急速にアジアに浸透してきました。経済的發展は大いに歓迎すべきなのですが、個人主義は不慣れな分、やはり面食らう文化だと思えます。都市化が進むと農村的大家族主義に代わるものとして、新興宗教の抱擁性・連帯性に期待する人たちが増えているのでしよう。

嘉木揚…モンゴルはチベット仏教です。遊牧社会のモンゴルでは、住居は移動式のゲル(包)でしたから、固定家屋の仏教寺院の出現は文化的に画期的出来事であったと想像されます。また寺院は学問の発信基地でもあった訳ですから、今でも寺院では最高の教育機関と考えられています。ところでチベット仏教の特徴として師僧(ラマ)の信仰があります。ラマは仏・法・僧の三宝と信者の仲介者と考えられ、モンゴル語仏典では三帰依文について「我らラマに帰依したてまつる」とあるほどです。もう一つの特徴として「転生活仏」の思想があります。高僧が亡くなると、その肉体から靈魂が分離し、他の新しい肉体に宿るといふ考えです。この活仏とラマへの信仰は融合しあい、活仏つまり「生き仏」こそ最高のラマであり、彼を崇拜することこそ最も悟りへの近道とみなされています。最近ノール平和賞を受賞された現在のダライ・ラマ

十四世も歴代のダライ・ラマ同様活仏です。引田・モンゴルの仏教の様子は少し分かりませんが、擁和宮とチベット仏教とはどういう関係なのですか。



嘉木揚凱朝師

嘉木揚・満州民族の国家、清朝の時代に作られた擁和宮は北京でのチベット仏教の拠点となりました。私はモンゴルの高校を卒業後この擁和宮で修行したのですが、この際試験があつてそれに受からないとこの宮に行けないのです。モンゴル各地から私を含めて二六人受かりましたが、この試験では百人に六人くらいしか合格しません。ここで十年くらい修行した後、同じ北京の黄寺にあるチベット大学（中国蔵語系高級仏学院）に入學しました。これは一九八七年に創立された大学ですが、程度は北京大学に匹敵するくらい高度なものと私は自負しております。またチベット仏教の活仏はチベットであれ、モンゴルであれ、各地で勉強した後、この高級仏学院に最終的に入學します。卒業すればパンチエン・ラマより真正の活仏である証明書を得ることが出来ます。もともとこの仏学院はパンチエン・ラマが中国政府に働きかけて作った大学

ですので、彼が証明書を発行するのは当然です。またここではチベット語・チベット仏教の他、中国語・中国仏教、さらには政治や経済を学ぶことも出来ます。

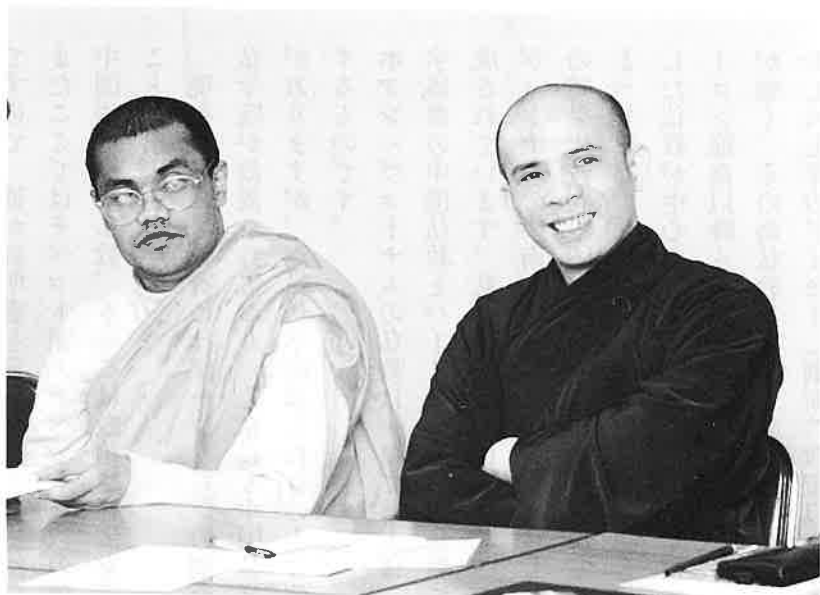
現在中国には各省にほぼ一つくらいの割合で仏学院が設置されており、北京にも中国仏学院がありますが、高級仏学院はこれらの上に位置するものです。

ホアン・ヴェトナムの仏教は一口で言えば、漢字經典の中国仏教とパーリ經典の上座仏教で構成されています。私自身臨済宗に属しています。ヴェトナムの中南部は多くの華僑が移住し、その結果比較的中国仏教、特に臨済系の禪宗が広まっていますし、北部は道教や在来信仰と習合した仏教が中心となっています。一九七五年サイゴン陥落以降八〇年代前半までは、社会主義が強^がく、その為仏教はふるいませ^がんでした。しかし八七年のドイモイ(刷新)政策以降、多く

の寺院が開放され、仏教は往時の繁栄を取り戻しました。最近では「乞食宗」(The Mendicant Sec)が有名です。この宗は上座仏教系ですが、一九六六年から一九八〇年まであった乞食サンガ(the Mendicant Sangha)をミン・ダン・クアン長老(Patriarch Minh Dang Quang)が一九八〇年に再興、拡大したものです。

引田・社会主義が強い時は僧侶の方たちは大変苦勞されたのでしようね。
ホアン・そうです。出家するのもままならず、私も政府に生まれながら、やっとの思いで僧侶になることが出来ました。

ギヤナ・バングラデーシュはイスラム国家ですが、チッタゴンを中心に約人口の一パーセントの仏教徒がおります。僧侶の数は一千名くらいでしょう。ただ寺院の数は遺跡を含めると僧侶の数より多いと言われています。もともと私の国にはネパールの金剛乘(ヴァジュラ・ヤーナ)



(左)ギャナ・ラトナ・スローモン師、(右)ホアン・トロン・ソー師

に似た仏教の派がありました。ダシヤ・マテ (Dasa Mate) / ティタ・マテ (Tita Mate) / ラームダシヤ・マテ (Rām Dāsa Mate) ですがその後統一されてマテ・ニカーヤ (Mate Nikaya) となりました。しかし現在は、ビルマから移入された上座仏教系のサンガラージヤ・ニカーヤ (Sangharaja Nikaya) が主流になっています。

出家の契機

引田：どうもありがとうございます。次に皆さんが出家されたきっかけをお話し頂きたいと思います。ご存じのように日本では親が寺の住職だから自分も僧侶になるんだという、世襲的出家が大半を占めています。これはある意味で仏教のダイナミズムが損なわれる大きな要因ではないかと危惧される現象です。そこで在家出家された皆さんの出家の契機を参考にさせて頂きたいと思っています。

朴・私はもともとキリスト教徒だったんです。教会にも通っていました。ところがある日、一人のお坊さんと道で出会い、そのすがすがしい顔や姿に感動し、これが自分の生きる道だと決心したわけです。突然のことで両親は猛反対しました。それに私は朴家の長男としてこの家を守るように義務づけられておりましたから、両親から出家の許可を得るには大変苦労しました。

鄭・私の場合には父が熱心な仏教信者でしたから、むしろ私の出家を歓迎してくれました。馬祖信仰の影響もあって多くの尼僧がおり、そのことも私の出家は自然でした。

嘉木揚・私の場合には出家することは一族にとって名誉なことでした。叔父も立派なラマ僧でしたし、私の故郷からも多くの高名なラマ僧が輩出しています。

ホアン・ヴェトナムの当時の政治状況からすれ

ば、出家などとんでもないことでしたが、自分の人生をかけられるのは仏教しかないと感じ、出家しました。

ギヤナ・バンングラデーシユでも、現在仏教は迫害とまでは言わないまでも冷遇されていることは確かです。ですからどうして出家したかというより、どのようにして仏教を伝え広めるかのほうに関心がむきます。チッタゴンの大学を卒業してからタイの仏教大学に入ってみて、如何にこの国では研究者や文献が豊富であるかに驚かされました。

留学の目的

引田・確かに仏教が広く信仰されている国では、仏教を専門に研究する学者も多いし、文献も豊富に揃っています。日本はその意味で世界に誇れる質と量を備えた国と言えるでしょう。皆さんが愛知学院大学に入学されたのも、このよう

な理由なのでしょうが。

ギヤナ・そうですね。しかも日本は経済的に大きく飛躍しています。アジアから見たら羨望的だと思います。しかも日本は上座仏教ではなく大乘仏教の国ですから、この大乘仏教と経済発展に何らかの因果関係があるのか、前々から一度調べてみたいと思っておりました。

鄭・私の場合は、前にも申しましたように師が以前正眼寺で修行していましたので、自然に日本に行つて正眼寺で修行しようという気持ちになりました。ただ、正眼短期大学を終え、修行した後もう少し禅のことを勉強したいと思ひ、この大学に編入学したわけです。

嘉木揚・私は日本の密教に興味がありました。チベット仏教は「顕密双修」と言われますが、やはり密教の方が中心です。空海が請来したる密教が日本でのように展開していったのか調べたいと思ひ、留学を決意しました。幸ひ私の

知り合いが台湾におり、学費の援助もお願いできたので日本に来ることが出来ました。

朴・韓国の仏教研究はどちらかと言えば漢訳仏典が中心でパリー仏教は余り発展していません。そこで私の友達数人となんとかパリー仏教研究を韓国で発展させようと、それぞれイギリスのオックスフォード大学、インドのプーナ大学、日本の東京大学と愛知学院大学に留学して、パリー語・パリー仏教の研修に努めようと決意しました。ですから鄭さん同様留学の目的はかなり明確で限定されたものでした。

ホアン・私の場合はもう少し漠然としています。社会主義が私の国の政治の中心にあった時、従来の仏教研究はかなり衰退しました。最近もう一度仏教研究を發展させたいという欲求が信者の中に起こり、大寺院の中のヴェトナム仏教研究などはかなり活動を開始しています。やはり海外に出て仏法の伝統を学ぶことが必要不可

欠であると考えられるようになりました。私は、その所属する教団の性格上、臨済系の禅宗の研究が進んでいる日本に留学したいと願うようになりました。

引田…それぞれ異なった動機で留学してこれたわけですが、仏教の勉強と言っても、どれか一つの分野に限定し、母国ではどうしても無理だから、専門の学者を頼ってたまたま日本に来

られた人と、もっと一般的に日本の仏教全般にわたって、言い替えればこちらの仏教学者と人的交流を深めることを目的として来られた人との、二種類に分類されるようです。何れの場合にしても、私たち日本の仏教学者は真摯な気持ちをもって、皆さんの情熱に応えなければならぬことを再認識いたしました。今後ともより一層の学問の研鑽を積まれることを期待します。

